

自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

グループ(学校)名 大垣工業高等学校 (定時制)

テーマ 困り感の強い生徒支援の実践と校内支援体制のさらなる構築を目指して

取組のポイント・成果

Ⅰ 活動の目的

本校は、発達障がい生徒やその疑いのある生徒が多く在籍し、学習や人とのコミュニケーションに関して困り感を抱える生徒が多い。そのため、教職員が生徒の特性を理解し、情報を共有しながら適切な支援を行うことが強く求められる。こうした現状を踏まえ、教職員が特別支援教育に関する知識を増やし支援の実践力を身につけるため、また、校内支援体制を組織的で持続可能なものにするために活動を行った。

Ⅱ 活動内容

1 専門家による年間を通した指導・助言

- 講師 : 土屋恭子 氏 (岐阜県高等学校発達障がい支援スーパーバイザー)
- 指導内容 : 年間 4 回 (各 3 時間) のご指導
 - ・授業のご高覧と講評 (振り返り)、校内支援体制や支援計画に関する指導・助言、校内職員研修会や生徒情報交換会における助言
 - ・第 1 回 6 月 28 日、第 2 回 9 月 19 日、第 3 回 10 月 29 日、第 4 回 12 月 9 日

2 先進校訪問

自校型通級指導を実践する県内の高校や先進的な取組みが行われている学校・施設等を訪問し、通級授業の参観や指導法・支援体制等について説明を受けた。

- 訪問校 (全 6 校)
 - ・ 7 月 14 日 (日) 華陽フロンティア高校 (通信制)
 - ・ 10 月 8 日 (火) 西濃学園高等学校
 - ・ 10 月 30 日 (水) 不破高校
 - ・ 11 月 26 日 (火) 飛騨高山高校 (通信制)
 - ・ 12 月 11 日 (水) 京都市立京都奏和高校 (定時制)
 - ・ 12 月 12 日 (木) 東濃フロンティア高校 (定時制)

3 校内職員研修会の実施

上記 1・2 の活動内容に関連するテーマを設定し校内職員研修会を実施した。

- ・ 9 月 19 日 (木) グループ討議 (テーマ:「UD の視点に立った授業について」)
- ・ 10 月 30 日 (水) 研究授業 (工業科「機械工作 (3 年生)」)
 - ※すべての教科担任が、「UD の視点に立った授業」をテーマに学習指導案を教科ごとに作成し、授業実践を行った。そのうちの 1 つを研究授業とした。
- ・ 11 月 13 日 (水) 自立活動授業の体験 (通級授業で使われるカードゲーム等を体験した)
- ・ 学校訪問の報告会 (全 6 回)

Ⅲ 成果

○特別支援教育に関する学び（知識・経験）の機会の創出 ⇒ 個々の意識の変化

- ・ 特性のある生徒の行動や考え方についての学び
- ・ 通級授業の参観等を通した指導方法についての学び
- ・ UD の視点に立った授業についての学び
- ・ 授業実践や校内研修会における体験を通した学び
- ・ 生徒を理解しようとする意識
- ・ 授業改善への意識
- ・ 特別支援教育に対する理解と意識
- ・ 個々の意識変化が組織強化へ

○「個別の教育支援計画」を中心とした年間支援計画の確立（組織的な支援体制へ）

- ・ 「個別の教育支援計画」の「作成 ⇒ 活用 ⇒ 引継ぎ」までの年間の流れを確立

○ UD の視点に立った授業実践のための授業の構造化と統一した取組み

- ・ 授業の目標や流れの可視化
- ・ 定期考査のフォント（UD フォント）の統一化

（職員研修会）グループ討議（テーマ：「UD の視点に立った授業について」）9 月 19 日



（職員研修会）自立活動授業の体験（通級授業で使われるカードゲーム等を体験）11 月 13 日



（左）各種カードゲーム

（例）「ころかるた」

「佐藤です。好きなおにぎりの具は梅です。」 など

（右）コグトレ棒を使った

認知トレーニング

今後の課題

○組織や取組みの継続性と発展性

- ・ 校内支援体制の維持・継続とさらなる強化・改善
- ・ UD の視点に立った授業実践の継続と深化
 - ⇒（そのために）教職員間での情報の共有と意識の統一化、定期的な研修の実施、外部専門家（SC、SSW、通級担当教員、学習支援員等）との連携、業務の適切な引継ぎと役割の明確化等